静岡大学教育研究評議会
評議員 各位

静岡大学と浜松医科大学との法人統合について

2018 年 6 月 28 日、静岡大学と浜松医科大学の学長が記者会見し、両大学の法人統合（1 法人 2 大学体制）に向けた協議を始めることが報道されました(6 月 29 日付静岡、朝日)。その後、この問題をめぐる学内での検討や論議の状況、各部局の動向なども新聞･テレビの報道で承知しておりますが、事の重大性に鑑み、大学運営の原点に照らして、以下の点でさらに十分な検討と熟議を凝らされるよう期待します。

１　最終的な意思決定に向けた熟議と、構成員の合意形成の大切さについて

今般の法人統合のような、静岡大学の将来にとって極めて重大な組織改革については、教育・研究におけるメリット・デメリット（統合価値）を具体的･説得的に示した「構想」をもとに、平時にも増して慎重な検討と熟議の上に、学生や事務職員も含めた大学構成員の合意形成に努め、地域社会の支持・理解にも耐えうる意思決定のあり方が肝要です。「大学の自治」を組織原則とする大学でこそ、意思決定プロセスでの〝民主的手続き〟が大切だと考えるからです。

２　法人統合に当たって、堅持すべき基本点について

大学を取りまく諸状況から、法人統合が避けられないとしても、そこではまず、総合大学にふさわしい多様な分野･領域での教育研究力が、大学総体として均衡的に「底上げ」されることが肝要です。法人統合に当っては、その点を俯瞰的に示した海図として、限られた人的･物的リソースを有効に活かした的確な経営判断をもとに、教育研究の豊かな発展と学生の修学およびキャンパスライフの充実につながる持続可能なグランドデザインの策定と提示が必要です。「生き残りをかけた」とする組織改革の名で、集積された多様な知的資源を切り捨て、特定の分野・部局に過大な犠牲を強いることは避けなければなりません。

教育研究評議会におかれては、上記の点を十分踏まえて議論を尽くし、後世に誤まりなきを期して、誇るべき本学の歴史的価値を損ねることのないよう、慎重かつ賢明な判断をなされることを、ステークホルダーの一員として重ねて期待します。

2019 年 3 月 13 日